



## スピークアウト

### ～ベルギーの Steph～

#### 自己紹介

ベルギー出身で、現在 42 歳になる。ヘテロセクシャルだった両親は 8 年間子どもに恵まれず、父が不妊であると診断された。両親は不妊治療のパイオニアの一人として知られたベルギーの医師のもとを訪ねた。そこで、外見が父に似た精子ドナーを「解決策」として提案された。そのドナーは、健康な実子をもつ既婚者であるという保証がついていた。

両親は「セット販売」を提案された。定額で何度でも人工授精できた。母は 2 回目の人工授精で私たち三つ子を妊娠した。私たちは女 2 人、男 1 人の三つ子として 1979 年の 1 月に生まれた。その際、医師は両親にドナー提供によって生まれたことを決して伝えないように助言していた。

ところが、私たちが生まれた 3 年後に母は父との子を自然妊娠した。父は、不妊であると診断した医師や、精子提供を勧めた母にだまされたという思いを抱いたようだ。毎日、三つ子の顔を見るたびに、この子たちは自分の子ではないのだと感じていたのだろう。父は、私たち三つ子とは距離を置いていたのに対し、下の弟とは、より親密な関係を築いていた。そ

の中で、自分はいつも拒否されているように感じていた。

実子をもうけた父は、三つ子はいらなかったという気持ちと葛藤していたのだろう。父は仕事に没頭していった。だから子育ては母ひとりの肩に重くのしかかってきた。それは母にとってもしんどいことだった。彼女も精神面で問題を抱え、それが子どもへの虐待（家庭内暴力）につながった。

高校時代に血液型について生物学の授業で学び、自分が父の本当の子どもではないことを知っていた。母はそれを否定したが。最終的に精子提供の事実について知った時には、さすがに驚いた。

25 歳の誕生日に、三つ子の兄弟から、精子提供によって生まれたと聞かされた。最初は冗談だと思ったが、徐々に現実を理解していった。(父の実子の)弟はそれを知ってとても困惑していた。まるで自分のきょうだいを失ってしまったように感じたのだろう。根本的に何かが変わったわけではなかったが、この事実によってやはり何かが変わった。

この時期に、私はパートナーとの子をもうけようとしていた。なかなか妊娠しなかったが、ついに妊娠した。今は、息子一人と娘が一人いる。子どもを持ったことで自分の出自を知りたいという気持ちをもっと強くなった。長い間、私もきょうだいたちも、精子提供で生まれた人たちが他にもたくさんいるということを知らなかった。ベルギーには子どもの権



利について法律がなく、こどもは取引の対象とされている。

私はドナーを探したかったが、どうやって探せばよいかわからなかったし、今の状況に満足すべきだと人からは言われたのでなかなか踏み出せなかった。しかし子どもを持ったことで、ドナーを見つけないという気持ちに火がついた。子どもたちにもドナーの一部が入っているから。また、パートナーが自分の異母きょうだいなのではないかと不安になったりもした(実際はもちろん違う)。自分の子どもを見ると、自分が持っていないものを持っているように思えて、喪失感を感じる。いまだに帰属意識を求めている。

子どもたちが成長し、ドナー探しにもっと時間を割けるようになった。そしてインターネットで、当事者の証言を読み、同じ立場の人たちを探すようになった。他の当事者が経験していたことは自分のものと似通っていた。

ベルギーでは第三者生殖に関する法律は2007年に施行された。ドナー・レジストリーを設けるべきだと法律には書いてあるが、実際には存在していない。

Donor conception からの出生者が安全な場所で交流できるようにフェイスブックのグループを作った。ベルギーではこの問題はタブー視されており、出生者がオープンに話すことがなかなかできない。

2012年には、思い切って写真つきでインタビューを受けた。自分の写真を見たドナーやドナーきょうだいから連絡が来るかもしれないと思ったから。ドナー

を見つけることはできなかったが、ネットワークは広がった。当事者の集まりを組織することができた。ベルギーで出自を知る権利が認められるよう、ロビー活動をした。

自分を含めた三人きょうだいは、もしかしたら違うドナーから生まれたのではないかという疑いを持っていた。それで、DNA 検査を行った。その結果、私と弟は同じドナーから、妹は別のドナーから生まれたということがわかった。つまり精子が混合されていたのだった。母は何も知らされておらず、医師から裏切られたと感じた(医師は、既に亡くなっていた)。こんなことは、感情的に決して容認できない行為だと思う。しかし、医師たちは、精子を混合して用いていたことについて、精子提供を継続するためには必要なことだったと釈明した。

ベルギーの一部の医師たちは、出自を知りたがっている出生者のことを“遺伝子原理主義者”と呼んでいる。とても侮辱的な感じがする。Donor-conception は非人道的だと思う。ドナー提供による出生者は決して“ユニーク”な存在であったり、“望まれた”存在であったり、そこら中にドナーきょうだいがいるような状況を望んでいたのではない。親は実子を欲しがすが、最後に選択肢がなくなって追い詰められて donor conception を選んでいるだけだ。

2年前、初めてドナーきょうだいを見つけた。弟が見つけたのだが、彼は興味半分で遺伝子検査を受けただけで、自分が精子提供で生まれたことは知らなかつ



た。最初、母親は嘘をついたが、最後は認めた。ドナー兄弟と自分たちの誕生日はたった12日違いだった。ドナー兄弟は身体的に私には似ていなかったが、三つ子の弟とは行動がよく似ていた。その後、別のドナー姉妹も見つけた。彼女とは以前、理学療法士のオフィスで会っていたことがわかった。彼女の娘は自分の家の近くの学校に通っている。バルセロナにも別のドナー兄弟がいて、彼とは一番仲がいい。

ドナーは2017年に亡くなっていたことがわかった。それを知って落胆した。ドナーの実の姉妹の住所を探し当て、直接会いに行った。その時、家にいなかったため手紙を置いてきた。1週間後に電話をかけてみたが、その女性は自分のことを疎ましいと感じていた。ドナーとの関係が良くなかったようだ。最終的にドナーの他の家族にもDNA検査を受けてもらうことになった。それには弁護士も必要になって大変なことだった。DNA検査の結果が出て、ようやくその男性は自分のドナーだったことが確定した。

ドナーについて調べたところ、彼は癌で亡くなっていた。自分の将来のために、ドナーの診療記録を見たいと申し出た。目の具合が悪く、ドナーから来ているかを知りたかったから。これは遺伝性のものだと言われていたので。

三つ子の妹も、ドナーを見つけた。しかしドナーは彼女と関係するのを嫌がった。これは二度目の拒絶のようだった。

そのことで彼女は非常にネガティブな影響を受けた。

**Q. グループについて概要を教えてください。**

オランダの友人が“Donor Detective”を設立し、自分は設立メンバー6人の一人として参加した。このグループのアイデアはすべての人は出自を知る権利があるということ。医師がドナー記録を破壊しないようにするだけでは足りない。DNA検査があつてよかつたと思う。

設立メンバーの一人のエイミーはDNA検査でドナーを見つけた。グループでは、ドナーを見つける手助けもしている。グループはオランダとベルギーの当事者向けのクローズドのフェイスブックグループを持っている。

設立メンバーは次々と血縁者（ドナーきょうだいなど）を見つけ出した。そして6人全員が自分の遺伝上の父親を見つけることができた。そして、その中で私が一番最後だった。

**Q. 育ての父親はどんな存在でしたか？**

育ての父親との関係は、最初からぎくしゃくしていた。

**Q. 3人きょうだいとのことですが、きょうだいの間で知りたい気持ちに温度差はありますか？**



ほかのきょうだいは私ほど興味がなかったが、私が探し始めたので、彼らもだんだんドナーを知りたいと思うようになったみたいだ。

三つ子の弟はどうでもいいといつも言っていたが、やめろということはなかった。私が遺伝上の父を見つけて写真を公開した時、弟は“やったね!”と言ってくれた。写真を見て、もっとドナーについて知りたくなったみたいだ。

#### Q. 親と子どもの立場の違いについてどう感じますか？

家族の中で、完全にはなじんでいないといつも感じていた。遺伝的に繋がった両親に育てられるのが一番良かったと思う。自分では全くコントロールできない状況に強制的に置かれたような感じ。もしドナーについて知ることができていれば、そこまで強烈に自分のアイデンティティを求めることはなかったのではないかと思う。仮に知っていたとしてもそれはそれで辛かったかもしれない。

なぜなら、ドナーは提供したとき、19歳だったから。良い関係を築けたとは思わないから。

ドナー家族の写真を見ると、自分の存在がその写真から抜けていると感じる。自分はその関係に乗り遅れ、チャンスを逃したみたい。ドナーは提供後もずっと生きていたが、自分のアイデンティティを見つけられないようにあらゆることをした。私の方は、実の家族を見つけ出す

ためにメディアにも露出して、自分の悲しみを世間に晒すことになった。これは、非人道的なことだ。

#### Q. donor conception は禁止すべきでしょうか？

子どもの視点を第一に考えると、子どもが実の両親に育てられ、遺伝的に関係がある人たちのこともちゃんと知ることが子どもの利益になる。Donor conception で得をするのは親だけだ。

つまり、子どものことを第一に考えるなら、donor conception を正当化するのはかなり難しい。

#### Q. ベルギーで養子の場合の出自を知る権利は認められていますか？

里子には知る権利が認められている。すべての関係者の権利についてきちんとしたガイドラインがある。それが一番、正直で正しく、公平な方法だと思う。

養子にも出自を知る権利が認められ、情報にもアクセスできる。しかし、養子について過去にスキャンダルがあった。孤児として引き取られた子どもたちが大人になって真実ではないことがわかった。彼らは赤ん坊の時に医師や修道女に連れ去られた。養子には自殺する人も多い。

#### Q. 家族の多様化が進んでいます。どこまで容認すべきでしょうか？



ゲイカップルから精子提供を受けて子どもを持ったレズビアンカップルと話したことがある。共同で子育てするという約束だったが、結局、訴訟に発展した。そのような例も知っている。

### Q. 早い時期から告知すれば、問題はなくなりますか？

このような例があった。まだ10歳の子供からの相談だった。彼女の母親はシングルマザーで、精子提供で生まれたことを知らされていた。しかし、ドナーが匿名であることに悩んでいた。しかし、心配しないように教えられていたから質問できなかった。その子はとても頭のいい子だった。彼女は父親の姿をみたいと切望していたのに、ドナーを知ることが許されていない状況に混乱していた。私が訪問した時に、彼女と1対1で話した。彼女はなぜ知ることができないのかと尋ねてきた。自分は今法律を変えようと頑張っていると彼女に伝えた。彼女はそのあと、ドナーきょうだいを実際に見つけることができたが、これか彼女にとって思いがけないことだった。

そのほかのシングルマザーたちからもコンタクトをもらっている。そして、彼女たちの子どもがドナーを知りたがっていれば、その手助けもする。

そのほかに印象的だったのは、ドナー提供によって生まれた12歳の男の子が1組の双子とマッチングしたことだ。その双子はアイルランドのレズビアンカップルの間に生まれた。彼女たちはより手頃

な価格で子どもを持つことができるムンバイに行った。しかし妊娠せず、結局デンマーク人ドナーの卵子と精子を使った。だから、12歳の男の子のドナーはデンマークにいる。ドナーはベルギーにいらと言われていたので、とても落胆していた。ドナーきょうだいも大勢いるようだった。

(2021年6月)



Steph Raeymaekers

Donor Kinderen の代表であり、Donor Detective の創設メンバーの一人。  
精子提供によって三つ子の一人として生まれる。

25歳の時に自分がドナー提供により生まれたと知り、自分の子供を持ったことをきっかけにドナー探しを始め、ドナーがすでに亡くなっていたことを知る。

記事

[I triplet, 1 cocktail of sperm](#)

[The Surrogacy Fair](#)

Donor Kinderen [Link](#)

Donor Detective [Link](#)

ドナーから生まれた当事者のための非営利の自助グループ。情報提供や、相談にも応じている。ドナーやドナーきょうだいを見つける手助けもする。4人のオランダ人、2人のベルギー人で構成される。クローズドのフェイスブックグループを持ち、当事者に交流の場を提供している。